ライフサポートひなた

症　例　概　要　利用者：80代　　女性　介護度 3

利用期間：令和4年12月中旬～現在

既往歴：第4腰椎圧迫骨折、骨粗鬆症、高血圧、左中大動脈狭窄症
頭部外傷、外傷性クモ膜下出血、急性硬膜下血腫、COVID-19

これまではデイケアを利用しながら独居生活をしていた。2022年9月腰痛で動けなくなり、第4腰椎圧迫骨折の診断で救急搬送され入院、その後リハビリ目的で他病院に入院したが、今迄のように独居生活は無理であると判断。12月中旬ひなた入所となった。疼痛緩和とリハビリの継続で在宅復帰可能となった。

内　　容

当初から在宅復帰の希望があり、リハビリの為、入所となる。

「痛みさえなければ、早く家に帰りたい」といった発言も多々聞かれていたが

入所時は、左大腿部から膝にかけて痛みがあり、車椅子介助での対応であった。

メンタル面でもネガティブな発言が聞かれており、食事以外ベット上で過ごす事がほとんどだった。排泄に関しても、下衣の上げ下げ介助し、日中はリハビリパンツと装着パット、夜間は大パットを使用していた。

担当リハとカンファレンスを定期的に行い、ご本人にどんな声掛けをしたらよいか・・・モチベーションを向上させるにはどうしたら良いか・・・等を話した。そしてご本人とも話し合いをし、痛みが強い時はスタッフにて介入を行った。このように段階を踏み、車椅子自走へ移行した。

リハビリパンツから布パンツへの移行にも不安があったようだが、常に傾聴を行い、前進している事を伝え続けた。そして徐々にではあるが前向きな発言もきかれ、自分でしっかりとトイレに行かれているという事もあり、布パンツへの移行にも繋がった。

リハビリに関しても、下肢の痛みが軽減し、ご本人の意欲が向上したことで、歩行器による歩行訓練へと進み、最初は1日1回の付き添い歩行となる。その後、ご本人との話しを行い、毎回付き添い歩行へと変更となる。

以前は居室で塗り絵などして過ごすことが多かったが、フロアに出て新聞を読んで過ごすようにもなり、リハビリが実施されない日曜日は、立ち上がり体操にも参加され、「これくらい、出来なくちゃね」と笑

顔も見られる様になった。

以前の様に出来る事が増えた事で、モチベーションもかなり向上していき、5月に入り、歩行器フリーにも移行する事ができた。

ご本人の希望でもある、在宅復帰に向け、多職種が協働し支援に取り組んでいる事例である。

※5月下旬に自宅に退所予定である。